

國學院大學

人間開発学部

10年の歩み



もっと日本を。もっと世界へ。



KOKUGAKUIN UTM

國學院大學

内なる力を外に向けて



國學院大學 学長 赤井 益久

人間開発学部の創設10周年を迎え、さらなる展開を期すに際して、これまでの発展を支え貢献頂いた関係者の皆様に、心よりお祝いと感謝を申し上げます。

今から十数年前大学は、たまプラーザキャンパスを将来にわたって、戦略的に有効活用することが大学の生命線であるとの認識を持ち、検討を重ねていました。「たまプラーザ有効活用プロジェクト」は、それまでの本学の学術資産や建学の精神に基づく種々の可能性を探っていました。既存学部との関連性、これまでの学術資産や伝統との親和性、それらと連携でき、しかも、大学の使命としての将来的に社会に貢献できる新学部を構想するようになりました。

平成19年は、大学にとっても、新学部にとっても忘れられない年でありました。平成14年、國學院大學創立120周年に当たり、神道文化学部が設置され、「文部科学省21世紀COEプログラム」が採択されて5年経過し、新たな大学の在り方を問いかける動きがあったからです。当初、個別事業からなっていた「21世紀研究教育計画」は、大学の中期計画・中期目標であるべきとの考えのもと、大学全体を視野に入れた計画にしていこうと大きな展開を見ることになりました。その計画の見直しと連携しましたのが「研究教育開発推進に関する指針」(平成20年4月1日制定)の宣言でありました。そして「21世紀研究教育計画」第2次計画の策定があり、そこに新学部構想も計画に盛り込まれました。

従来もそしてこれからも本学の使命の一つに「教育に携わる人材の育成」が掲げられ、また同時に「教職の國學院」の世評を現実を活かすべきであろうとの構想を経て、設置の準備にかかりました。その核となる学部長予定者に新富康央先生をお迎えできたことも大学にとっては幸いでした。

既存学部の協力による教員組織の改革、初等教育学科と健康体育学科の2学科による船出、幼児教育専門学校の発展的解消と糾合による子ども支援学科の増設、当時の担当理事として種々の思いが脳裏に去来しています。人間の潜在的能力を開発していこうという当初の設置理念は、色あせることなく、ますます輝きを増しています。

「内なる力を外に向けて」は、大学全体のこれからの方針にも参考にすべき考えであると思っています。

人間開発学部の明日へ^{おも}慮いを寄せて 創設10周年を祝う



人間開発学部長 田沼 茂紀

平成21年4月に國學院大學5番目の学部として創設された人間開発学部も、今年度で10周年を迎えることができました。その間、多くの大学関係者、院友会や若木育成会の皆様には、陰に日向に心温まる絶大なご支援を賜りました。この度、学部創設10周年を迎えるにあたり、衷心より御礼申し上げます。

今更ではあります、学部草創期を顧みますと、それこそ手探りでスタートであったことを思い起こさずにはられません。他学部から移られた先生、他大学等から新学部立ち上げのために参加された先生、様々な先生方が様々な思いを内に秘めながら、相互に力を合わせて新学部の理念である「人づくりのプロを育てる」ことを目指して直向きに努力を積み重ねて参りました。また、その過程では「教職の國學院」を自分達の手で支えなければ・・・という熱き志を教員と学生とが一体となって共有し合い、学部の歴史を刻み続けてこられたことも今ではかけがえのない財産となっています。

多くの皆様より親身で、そして惜しみないご支援を賜りながら歩んできた本学部ですが、既に教育界をはじめとする各分野へ第6期生まで約1,600名もの有為な人材を輩出しております。そして、それぞれの持ち場で高い評価を得る活躍をしてくれています。また、有り難いことに卒業生は自分たちの後輩を何かと気にかけて、事ある毎にキャンパスへと足を運んでは様々な助言をしたり、よき相談手を務めてくれたりしています。このような自分から広がる人間関係の輪を大切に、全ての人を「尊在」として尊重しようとする学部風土こそが在校生にとっての大きな誇り、自負心、頑張る活力となって引き継がれています。そんな人間開発学部を支えてくださる関係の皆様お一人お一人に、改めて心より「ありがとう」の言葉を申し上げたい思いで一杯です。

最後に、今後ますます多様化・グローバル化する現代社会を視座し、本学部がこれから歩む10年間に思いを致しますと、学部創設時からの「慮い」である「頑張ることを応援する未来志向の人づくり学部」という教育理念は間違いなくこれからも学部教育の中核として継承されるに違いありません。なぜなら、子育て支援の専門家である保育者養成、学校教育支援の専門家である教員養成、人の一生にわたる健康生活支援を担うスポーツ・ヘルスプロモーション支援リーダー等の育成という、まさに人の一生に寄り添う「人を支える人となる」ことにこだわり続ける人材育成学部としての本学部の原点は、やはり「人間開発学」にあるからです。本学部の今後の発展に引き続きのご支援をお願い申し上げ、人間開発学部創設10周年のご挨拶とさせていただきます。

「人間開発(修理固成)」の誇りを胸に！ ～学部創設10周年に想う～



人間開発学部 前学部長 新富 康央

学部創設10周年の祝辞の前に、教職員、卒業生の皆様に、お礼と感謝の辞を述べなければなりません。私たちにとっての「10周年」は、正に「10執念」であったかもしれません。

学部創設時は当然のことながら、羅針盤も、航海図も無い「ゼロからの出発」でした。頑張る教職員の皆様を前に、「倒れてはなりません。倒れる前まで働いて下さい」と訓示もしました。お蔭様で「人間開発・発」という新語まで生まれました。「共有フェスティバル」や「学生会議」等も導入し、「共育」と「響育」の教員・職員・学生の3つのトライアングル体制の形もできました。

しかし、創設時の模索状態の中でも、本学部の目指す方向性、すなわち学部の設置理念は明確でした。「教育の前に、人間開発あり」です。また、それに基づいた3つの教育テーマでした。①「損在」を「尊在」にする指導者の養成、②「頑張ることを応援」する指導者の養成、③心の「手当て(手を当てる)」のできる指導者の養成、でした。これらは全て、現代社会における人づくりの有り様の問題点から導き出されました。

ここで、もう一つ忘れてはならないのは、本学の設置理念である「修理固成(おさめづくりかためなせ)」との関係性です。これは、日本誕生の神話『古事記』の「国生み」に出てくる言葉です。その意味は、高天原の神々が命じた人心の開発と社会の開発です。人間開発学部は、このうちの「人心の開発」を目的として創設した学部でした。

欧米の「つくる」文化に対して、日本のそれは、「なる」文化と言われます。我が国の子育て文化は、早苗が自分自身で一株立ちしてスクスクと稲に「なる」ように、人の育ちも「なる」文化なのです。自分自身が育つのです。すなわち、人が自ら自律して育つこと、それを「人間開発」と言います。

しかし、早苗が一株立ちして、稲になり、たわわに稲穂を実らせるには、大変な手間を必要とします。私たちは「手間の仕方」をより一層、研究開発しなければなりません。本学部は、「教育」の前提である、誰にも内在する資質・能力を最大限「人間開発」する手法を研究し、教育を通して、社会に広める社会的責務と使命を負っています。

この10年間、私たちが「執念」と言えるほど頑張ってきたのも、「人間開発(修理固成)」を研究、教育しているという自負と誇りであった、と言えます。卒業生の皆さんも、これからあるべき教育像を学んだという誇りを胸に、社会の各分野で活躍して欲しいと願います。

「たとえ明日、地球が減じようとも、私は今日、リンゴの木を植える」(M. ルター)。人づくりの営みは、明日、地球が減じようとも休むことのできない崇高な永遠の営みです。これからも本学部が、「人間開発」の理念を旗印に、更なる社会的躍進をすることを、心より祈念し、祝辞と致します。

人間開発学部および関連の歩み

平成19(2007)年度	國學院大學21世紀研究教育計画(第2次)の始動
平成19(2007)年 9月	教育系新学部設置室を開設
平成20(2008)年10月	人間開発学部 設置認可
平成21(2009)年 3月	横浜たまプラーザキャンパス校舎整備完了
平成21(2009)年 4月	人間開発学部(初等教育学科・健康体育学科) 開設 初代学部長に新富康央教授が就任
平成21(2009)年 9月	大学マスコット「こくぴょん」誕生
平成22(2010)年度	青葉区と区内6大学連携事業の開始
平成22(2010)年 9月	「響同」の商標登録【第5356683号】
平成22(2010)年11月	テニスコート全面人工芝化完了
平成23(2011)年 1月	第87回箱根駅伝にてシード権獲得
平成23(2011)年 3月	第2体育館竣工、球技場人工芝化完了
平成23(2011)年 3月	東日本大震災
平成23(2011)年 4月	入学式中止のため、605教室にて学部開講式を挙げる
平成23(2011)年11月	人間開発学部学部長賞の表彰制度を制定
平成24(2012)年 2月	野球場人工芝化完了
平成24(2012)年 4月	万葉エコBeeプロジェクト(養蜂事業)開始
平成24(2012)年11月	國學院大學創立130周年記念式典を挙げる
平成25(2013)年 3月	人間開発学部1期生(國學院大學121期)卒業
平成25(2013)年 3月	國學院大學幼児教育専門学校の閉校。5号館へ改修
平成25(2013)年 4月	第3の学科となる「子ども支援学科」開設
平成25(2013)年 9月	生協が1号館地下1階へ移設
平成25(2013)年10月	2号館1階にカフェラウンジ「万葉の小径」オープン
平成26(2014)年11月	1号館1階にLLC YOKOHAMA OFFICEオープン
平成28(2016)年 4月	健康体育学科定員増加(100名から130名へ)
平成29(2017)年 3月	子ども支援学科1期生(國學院大學125期)卒業
平成29(2017)年 4月	第2代学部長に田沼茂紀教授が就任
平成30(2018)年 4月	人間開発学部創設10周年

平成21(2009)年 横浜たまプラーザキャンパスに人間開発学部創設



横浜たまプラーザキャンパスの教室は人間開発学部の授業に対応するように整備されました。



人工芝に整備された球技場は、授業や課外活動に多用されています。



調理実習室



生理学演習室



音楽教室



平成23年3月11日(金)に発生した地震による東日本大震災の影響で平成23年度の入学式は中止されました。人間開発学部では4月16日(日)、横浜たまプラーザキャンパスにおいて、3期生の学部開講式を挙行了しました。



写真でふりかえる人間開発学部

ルーム制

教員と学生たちが心を通わせて響きあう少人数型の「響同」学習の体制をめざし「ルーム制」というシステムを採用しています。



総合講座(集団宿泊研修)

1年次のカリキュラムに「総合講座(集団宿泊研修)」があります。最初の4年間は新潟県妙高市にて、平成25年度からは御殿場市(および富士宮市朝霧高原)にて3泊4日の研修授業を実施しました。

平成31年度からは「野外活動実習」と名前を変え、各学科独自のカリキュラムになります。



共育フェスティバル

平成21年の第1回は県民共済みらいホールにてゲストと教員による「公開教育シンポジウム」として開催されました。

2回目以降は「教育実践総合センター」が統括し、「学生企画委員会」が主として運営しています。横浜たまプラーザキャンパスで、学生が日ごろの成果を披露し、地域の子どもたちのために様々な催し物を企画しています。人間開発学部の特徴的なイベントの1つです。



第1回共育フェスティバル(平成21年11月22日)



近年の共育フェスティバル

教育実習・保育実習報告会

教育実習・保育実習を行った後、全体での報告会を実施しています。各自が体験し、学んだことを共有し、学びの成果をより高めています。



卒業論文発表審査会

卒業論文は必修科目になっています。卒業論文審査会では全員が発表します。学生や教員からの質問を皮切りに議論が交わされます。



学部長賞

人間開発学部では、学部の理念に基づく本学部生による優れた実践的活動を表彰しています。



平成29年度学部長賞受賞者で記念撮影

卒業証書授与式・卒業祝賀会

グランドプリンスホテル新高輪での卒業式の後、人間開発学部卒業生は横浜たまプラーザキャンパスに集合します。学部教員から一人ひとりに卒業証書が手渡されます。



3学科合同で行われる卒業祝賀会では教員・学生のお互いが感謝の気持ちを抱き、学生の旅立ちを祝っています。



学生企画委員会

「國學院大學人間開発学会」では、学生会員(本学部学生)の修学・活動支援の一環として、学生企画委員会を組織し、「人間開発学」に関わる事業の主体的な企画立案・運営を行っています。



学生企画委員は、共育フェスティバルでも大活躍です。



絵本キャラバン・ミュージックキャラバン

小学校や児童館などで読み聞かせや演奏を行っています。



たまプラーザ宇宙の学校

子ども・宇宙・未来の会(KU-MA)の協力を得て、地域の小学生に理科の楽しさを伝えています。



スポーツ関連イベント

共育フェスティバルや地域交流スポーツフェスティバルなどでは、「支援学生の会」に加入している学生が積極的に活動をサポートしています。



万葉エコBeeプロジェクト

大学の130周年記念事業として始めました。本学部の学生が中心となって活動しています。



人間開発学会

学部創設とともに設立され、日本の伝統文化理解を基盤としつつ、新たな学際的領域「人間開発学」を樹立するため、学術活動及び学生の修学・活動支援を行います。



人間開発学会第1回大会(平成21年11月14日)

ブラッシュアップ委員会

人間開発学部の設置理念や目的を具現化するため、毎年度末に、学部の活動を見直す機会となっています。学部教員に加え、複数名の外部評価委員を招いて開催しています。



初等教育学科

主として小学校教諭の育成を目的とした学科です。伝統文化や言語・古典などを含む幅広い知識を吸収して、子どもの教育に必要な高い教育力・指導力を養います。同時に、体験型授業を通して教育現場への理解を深め、子どもたちの能力を引き出す人間力を身に付けます。この両輪により、理論と実践を兼ね備えた教育者を育成します。

教員一覧 (平成30(2018)年11月10日現在)

加藤 季夫 教授	高橋 幸子 教授	吉川 成夫 教授
近藤 良彦 教授	高山 真琴 教授	渡邊 雅俊 教授
坂本 正徳 教授	田沼 茂紀 教授	長田 恵理 准教授
柴崎 和夫 教授	田村 学 教授	寺本 貴啓 准教授
柴田 保之 教授	成田 信子 教授	堀江 紀子 助手
杉田 洋 教授	安野 功 教授	

在籍された先生方 (職階は退職・異動時)

猿田 祐嗣 教授	藤井 喜一 教授	矢吹 省司 教授
滝井 章 教授	宮川 八岐 教授	山西 治男 教授



平成30年度 初等教育学科入学生と学部教員



教育実習



教育インターンシップ



導入基礎演習(高山先生)



伝統文化授業論(安野先生)



教育の方法と技術(高橋先生)



模擬授業を行う学生



初等科教育法(家庭)での調理実習



児童英語基礎指導論(長田先生)



初等科教育法(算数)



理科実験を行う学生

・・・卒業生からのメッセージ・・・

新井里奈(1期生) 小学校教員

大学の授業だけでなく、サークル、学生ボランティア、宇宙の学校、絵本キャラバンと、在学中の活動で学んだことがすべて今の現場に生きていて感じています。

澤村慶紀(1期生) 小学校教員

1期生だった私は、新しい学部で沢山の先生方と出会い、実りある学生時代を過ごすことができました。社会科の楽しさに触れたことで、今でも社会科の研究校で授業研究を積み重ねています。

田宮可奈子(1期生)

人間開発という不思議な名前でもどんなことを学べるだろうか？と期待や不安がありましたが、ただ教育するというだけでなく、まさにヒトを育てる人になる！というコンセプトのもとで学ぶことが出来ました！

滝澤里美(2期生) 教員

現場を経験してきた先生方が多く、大学にいながら生きた学校現場の話の聞いて、勉強になりました。

山本美桜(2期生) 小学校教員

働き始めてあっという間に4年半が過ぎてしまいました。大好きな子どもたちと過ごせる時間、子どものことを思って準備している時間、1日の出来事を振り返っている時間は涙がじんわりと浮かんでしまうくらい心を温かくし、幸福感をもたらしてくれます。

玉岡泰成(2期生) 小学校教員

自分の大学生活は、部活動と勉強との両立に苦労すると同時に充実感を得ることのできるものとなりました。朝トレーニングをしてから6限まで講義を受けたこと。子どもに聞かせるための工夫を学

んだことを活かしてチームメイトに戦術を伝えたこと・・・等々。それが習い事と勉強との両立の大切さを子どもに伝える際、役立っています。

嶋崎あずさ(2期生) 小学校教員

「教師になろう」と決心し、大学を探している時に、「人間開発学部」という学部名にとっても惹かれたことを覚えています。人間開発学部での4年間を経て、教師と子どもではなく、お互いが一人間として関わり、共に成長していきることの意味や喜びを日々感じています。

和田鈴加(2期生) 小学校教員

教員生活5年目、元気で一筋縄ではいかない子どもたちと毎日過ごしています。

日々忙しく時間がない中ですが、もう一度大学で講義を受けたいと思うことが最近多いです。授業において実践に勝るものはありませんが、学生時代のように、ゆっくりと考えることも大切だと感じています。

伊藤優太(2期生) 小学校教員

人間開発学部では、教員を目指し学ぶ中で、先生方や友人など沢山の出会いがありました。その一つ一つが私にとって大切なものとなりました。そして今、私の夢であった小学校教諭として教壇に立っています。私を大きく成長させて下さったことに感謝しております。

福原啓輔(3期生) 小学校教員

初任の頃、まわりの先生に「すごいね」とほめられることがありました。それはどれも國學院大學人間開発学部で学んだ「あたりまえ」のことでした。

久米大輝(3期生) 小学校教員

現在、教員として担任を任せられ、日々子どもたちと接していますが、学習指導、生活指導、また保護者対応など、多くの学びが今に生きています。

日々変わる子どもたちの様子が感動する毎日です。今なら先生方がおっしゃっていた「児童の変容の喜び」がとてもよく理解できます。

佐野仁紀(3期生) 小学校教員

私は3年次編入で本学部に入りました。期待と不安の中、1年生とオリエンテーションを受けました。そして、絶対に自分は小学校の教師になるのだと決意しました。大学卒業後、臨時的任用職員として働きながら教員採用試験を受験し、合格することができました。

梅澤正輝(3期生) 小学校教員

教師研究サークルCandYでは、同じ志を持つ仲間と、「よい教師とは？」について語り合い、模擬授業や実験教室など様々な活動をする中で、豊かな学びがありました。

教員になって3年目。この仕事は、嬉しいことや楽しいことも多いですが、もちろん悩むこともあります。そんな時、ヒントをくれたり自らの背中を押ししたりしてくれるのは、学生時代に受けた先生方の授業やゼミ、サークル活動での学びの中にあることが多々あります。

鷹羽美音(4期生) 公務員

初等教育学科は、学生と教授との距離も近く、授業の中でも先生のお話を聞くだけでなく意見交換をしたり、学生が授業に参加する機会が多くありました。

細谷 萌(4期生) 小学校教員

先生方には入学から卒業まで、そして現在も本当にお世話になっています。近い距離で接していただけたこと、大変ありがたく思っております。

中川洋平(4期生) 小学校教員

大学生活での学びは教員になって生きています。多くの先生方のもとで学べて幸せでした。

三上真梨(4期生) 幼稚園教諭

私は大学生生活の4年間でかけがえのない仲間達や先生方とのつながりができました。素敵な出会いは自分にとって宝物です。

河野真紀(4期生) 会社員(航空)

教員という職業として人を作るだけではなく、社会人そして大人として自分自身を育て上げてくれたという意味では人間開発という学部名はとても素晴らしいものだと思います。

加藤綾乃(4期生) 小学校教員

大学生活の4年間は本当に楽しくかけがえのない時間でしたが、実際に教壇に立って子どもたちと向き合って、大学の講義で先生方が話していたことの意味に気付くことが多くありました。今、改めて受けた講義がたくさんあります。

講義や大学生活はもちろん、インターンシップやボランティア、東京都教師養成塾など、沢山の学びと多くの方々との出会いが今の私の基盤になっています。

亀谷紫乃(4期生) 小学校教員

私は今、埼玉県で小学校の教員をしています。子どもたちが多くの時間を過ごす教室がホッとできる大切な居場所であればならないという思いで、学級経営をおこなっています。大学生活4年間で身をもって感じた『先生との温かい距離感』が、今の教員生活に生

きています。

藤島綾乃(4期生) 小学校教員

ゼミでは、生徒指導の問題や子どもたちとの接し方など、同じ問題をゼミのみんなで悩み、考え、子どもたちにとって何が最良かを考えたことが、今とても参考になり、「あの時にみんなで考えることができてよかった」と思います。人の数だけ様々な意見が出るのが面白かったです。また、自分だけでは偏った考えになりがちでも、それを相談し、考えられる仲間がいたことが、今でも私の支えになっています。

宇津川晶子(4期生) 小学校教員

人間開発学部の学生のかたは、様々なことに挑戦をしました。

学生企画委員会やたまプラーザ宇宙の学校、エコBeeなどのサークル活動では、イベントの企画・運営をしました。

そこでは、①見通しをもった計画を立てることの大切さ、②仲間とともに協力し、ひとつのイベントをつくりあげる大変さを学びました。

青木智靖(4期生) 小学校教員

1年生の時の「宿泊研修」が思い出として残っています。「野外炊事」や「レクリエーション」などを自分たちで考えながら、そしてどのように子どもたちに指導するのかについて学びながら過ごした日々は、卒業してから2年間の内に校外学習で生きている経験です。

平井莉恵(4期生) 小学校教員

初等教育学科で学んだ4年間は、人生の中で1番自分を成長させてくれました。授業やゼミの中で教員になるために必要な力を教えてもらいました。そのおかげで夢を叶えることができ、今は夢を追いかけて頑張れる子ども達を育てています。

神山果穂(5期生) 小学校教員

私は國學院大學栃木短期大学から編入学をしてきました。はじめは不安でいっぱいだったものの、人間開発学部には教員を目指す学生が多く、すぐに打ち解けることができました。時には理想の教師像を語ったり、教員採用試験に合格することを願いながら遅い時間まで勉強したりと、そんな友人が傍にいたからこそ実現できた夢であると思っています。また、教授の先生方によるご指導やお話は、何も知らない私にとってとても心強く、教員採用試験合格には絶対に欠かせない存在でありました。

高橋夏花(5期生) 小学校教員

先生方との距離が近く、講義の時だけの関わりではなく、日常でも気軽に相談することができました。ルームやゼミ関係なしにいろいろな先生が相談に乗ったり、何気ない会話もたくさん付き合ったりして下さいました。

脇 涼太(5期生) 小学校教員

大学4年間を通してたくさんの学びがありました。教員生活をスタートして約8か月、理想の教師像を目指し、大学での学びを礎に頑張っています。

木下初奈(5期生) 会社員(医療事務)

入学時は初対面の人と話すことが苦手でした。たくさんの人と関わり、心から話せる友人と出会い、少しずつ自分を変えることができました。今では自分の話したいことを誰に対しても落ち着いて伝えることができるようになりました。辛い時や楽しい時も分かち合った友人、4年間面倒を見て下さった恩師との出会いは私の大学生活での財産です。

※メッセージは平成29年末～平成30年上半の間に寄せられました。職業や内容は当時のものです。職業が未記入であったものは空欄になっています。
※卒業期は初等教育学科のものです。

健康体育学科

保健体育教諭・スポーツ指導者・スポーツ施設職員・地域社会のスポーツリーダー・企業の人事管理部門での健康管理のスペシャリストなどの育成を目的とした学科です。スポーツ競技者の指導や、健康の保持・増進を目的とした指導、身体運動能力未開発者への指導など、様々な人々の健康・競技生活を支え、豊かで健康的な生活の実現を支援します。

教員一覧 (平成30(2018)年11月10日現在)

上口 孝文 教授	藤田 大誠 教授	備前 嘉文 准教授
植原 吉朗 教授	山田 佳弘 教授	伊藤 英之 助教
太田 直之 教授	川口 愛子 准教授	小林 唯 助教
大森 俊夫 教授	川田 裕樹 准教授	渡邊 奈々 助手
一 正孝 教授	神事 努 准教授	
原 英喜 教授	林 貢一郎 准教授	

在籍された先生方 (職階は退職・異動時)

海老沢 礼司 教授	藤田 和也 教授	井上 功一郎 助手
北本 拓 教授	村上 佳司 教授	鈴木 王香 助手
木村 一彦 教授	阿部 弘生 助手	



平成30年度 健康体育学科入学生と学部教員



運動方法基礎実習武道系(剣道)(植原先生)



武道と所作礼法(山田先生)



指導法実習表現系(水泳・水中運動)



運動生理学演習(呼吸循環系)(大森先生)



指導法実習表現系(陸上)



体育館で模擬授業を行う学生



運動方法基礎実習球技系(サッカー)



スポーツバイオメカニクス演習(神事先生)



野外実習(スキー)(原先生)



スポーツ栄養学演習(小林先生)

・・・卒業生からのメッセージ・・・

山本広夢(1期生) 福祉職員

大学の授業で受けた「障害者スポーツ論」がきっかけとなり、障害のある方のスポーツの指導に携わっています。今まで全国障害者スポーツ大会に出場する陸上競技の選手の指導もやらせていただいています。今年も横浜市代表として陸上競技のコーチとして全国大会に行きますので、選手全員にメダルを取ってもらえるようにサポート・指導をします。

笠松郁哉(1期生)

自分の大学時代の思い出は、サークル活動の陸上同好会です。陸上とも、もう一度真剣に向き合って取り組めたのも大きかったです。仲間とも学年を超えて、卒業した今でも繋がりを持っているのはありがたいことです。サークル活動を通して、自分たちで作成したメニューを頑張って、駅伝やレースに向けて同じ方向を見て、結束力やチーム力を高めていく大切さを学びました。

清谷公紀(1期生)

私達が一期生だったので、先輩がいない不安と自分たちで新しい事ができる楽しさがありました。それらが一番身にしみたのが「ゼミ」でした。私は、ゼミでゼミ長をやらせて頂きました。当時は「どうにかなる」と思ってゼミ長を引き受けましたが、私の力不足のせいで教授をはじめ、ゼミ生の皆には迷惑をかけたと思います。

本当に辛かったです。今でも学生生活の中で一番の思い出になりました。また社会に出て、今の経験が活かされると感じることもあります。

芦川紘子(2期生) トライアスロンコーチ

現在は、トライアスロンのコーチとして、社会人の方々へ主に水

泳を教えています。全く泳げない方が、トライアスロンに挑戦したい!と言って、水泳を習いに来ます。大袈裟ですが、その人の人生を変えることだと思っています。誰かの人生を変える一端を担える。責任もありますが楽しくて仕方ないです!大学で、運動・身体について学び、教える・伝えるについて考えてきたことが、私の今に繋がっています。

福田優哉(2期生) 中学校教員

私は学生時代、水泳部に所属し2年生の時から1年間主将を務めました。4年間水泳を中心とした生活を送り、部長、監督、先生や先輩方、同期、後輩たちなど仲間にも恵まれ、最高の水泳人生を送ることができました。その中で、水泳部のあるOBの先輩から繋がった縁で、働き始めることができ、大学でのたくさんの人との出会いが自分を救ってくれたと実感しました。

坂 彩加(3期生) 会社員(銀行)

大学時代は健康体育学科に所属しながら初等教育についても学ぶことができ、幅広い教養を身に付けることができました。また、友人だけでなく教授や事務課等職員の方々との距離が近いところが人間開発学部の良さだと思っています。卒業後も付き合いが長く続く友人も多く、人間開発学部でよかったと思うことが多いです。

現在私は教育現場で働いておりませんが、大学で学んだ、社会における私の役割期待は何かを考える力が、今の仕事に活かされていると実感しています。

川原瑠衣(3期生) 医療事務

学生と先生の距離が近く、アットホームな健康体育学科で楽しい4年間を過ごせました。

友人たちは今でも頻りに集まり、かけがえのない存在になっています。

木下紗季(3期生) 消防士

消防士の道へ進めたのは、この学部に入学したからです。あの時(大学生生活)最高に楽しかったな...!

加藤久美子(3期生) サービス業

体育分野以外にも興味ある分野には足を運び、自分の知見を広め深めることができました。そしてなによりかけがえのない生涯の友人にも出会えました。これからもこのご縁を大切にしていきたいです。

竹林芳華(3期生) インストラクター派遣会社

今の職場はスポーツクラブのインストラクターを派遣する会社で営業をしていますが、授業で学んだことを日々活かすことができます。

菅谷証博(3期生) 小学校教員

人間開発学部のアットホームな雰囲気がとても好きでした。先生たちも親身に話を聞いてくださる方ばかりで頼りになる先生方でした。

地方出身の私ですが、たまプラーザの街が好きになり横浜で生きていくことに決めました。

加藤真由美(3期生) インストラクター

自ら学ぶ姿勢があれば、スポーツ、健康、教育指導の細かい内容を学ぶことができます。現在はインストラクターとして、大人、小人ともに指導をしているので、大学で学んだ知識が生きています。特に運動学、健康体育論はすぐ実践に使える授業だったので、楽しく学べました。

佐藤光祐(3期生) 消防士

軟式野球部に加入し、勉強と運動を両立した4年間を過ごしました。今、大学生活を振り返ってみると、たまプラーザキャンパスはとても過ごしやすいキャンパスでした。現在は夢であった消防士になることができ、毎日一生懸命頑張っています。

赤坂雄太(3期生) 教員(特別支援)

大学の授業では教員になるうえでとてもたくさんのことを学ぶことができました。また、大学の同級生とは卒業後も会う関係が続くなどとても良い4年間を過ごすことができました。

織田遥介(3期生) 消防吏員

現在、東京消防庁で、消防吏員として都民のために働いています。泊まり勤務で、仕事は毎回体力勝負ですが、大変、やりがいがある仕事です。大学では、たくさんの仲間ができ、その仲間たちも今自分たちの仕事を頑張っているんだなと思うと、道は違えど、自分自身の活力になります。

宗像孝行(3期生) 会社員

先生と学生の距離が近く、学業以外にも様々な面でサポートしていただきました。どんなことも相談できる環境でした。

小木曾亮(3期生) 会社員

僕の大学生活は本当に野球漬けの毎日でした。苦しくて逃げ出したいと思ったことも多々ありましたが、多くの先生方、仲間、地域の方々など、本当にたくさんの支えがあって4年間やり抜くことができましたと思っています。学業と野球、どちらも疎かにせず、やれる環境に身を置けたことが一番の財産ではないかと思っています。現在は三菱重工名古屋硬式野球部に所属し、午前は社業、午後から練習という日々を送っています。大学生活で学んだこと、得たものが

本当に活かされているなど感じながらの日々は本当に充実しています。

田尻若奈(4期生) 特別支援学校教諭

私にとってあの4年間は「夢をかなえた時間」で、あの場所は「素敵な先生と仲間に会えた場所」です。

木下一樹(4期生) 小学校教員

大学生の当時は気が付きませんでした。辛いつき苦しいとき支えになるのは知識でも経験でもなく、同じ境遇にいる仲間です。

今でも勤務地は違いますが、連絡を取りお互いに切磋琢磨する気持ちをもって仕事に取り組んでいます。

吉田律輝(4期生) 中学校教員

箱根駅伝を目標に厳しい生活の中で仲間と共に切磋琢磨しました。私はケガが多かったため2年目以降は試合に出場する機会は少なく、悔しい思いをしました。しかし、自分と向き合い続けた日々や苦楽を共にした仲間たちは、今の私にとってかけがえのない財産となっています。また、そうした経験があったからこそ自分が指導者となりケガのない選手を育成したいという思いを強く持つようになりました。

大学卒業後は、大学院へ進み、自分の好きな長距離走に関する研究に打ち込みました。大学院修了後は中学校の教員として、今まで身に着けた知識と経験を子どもたちに伝えていきたいと思っています。

倉田クラン(4期生) 大学院

現在、大学院で、生涯スポーツを専攻として幅広い年代の人たちの健康に携わった研究活動をしています。大学時代は高校生を対象とした健康調査や高齢者のウォーキング教室の引率補助等のお手伝いをさせていただいておりました。その時の経験が、大学院の研究の一環である高齢者の健康調査

の補助や、子ども運動教室の取り組みに生かされています。

黒川悦敬(4期生) トレーナー

ゴールドジムのトレーナーとして働いています。大学では、幼児から高齢者まで幅広い世代の身体機能の調査、運動指導に関わらせていただきました。様々な世代が通うフィットネスクラブにおいて、大学で得た知識や経験がトレーニング指導や栄養カウンセリングの現場で大きく役立っています。

古屋徹郎(5期生) 小学校教員

私の大学生活一番の思い出は、採用試験に向けて突っ走った4年の7月です。あの時に頑張った本当によかったと、今教員をやりながら強く感じます。そこには、信頼できる先生方の全力サポートがありました。

渡邊睦未(5期生) 小学校教員

大学生活を振り返ると優しい先生方のお力添えもあり、とても充実した生活を過ごすことができました。

人間開発学部の先生方はフレンドリーで熱心で面白い方ばかりなので、在学中の方は是非、先生方に沢山質問や相談をして、自分の成長に繋がることを見つけて頂きたいです。

森 加奈江(5期生) 中学校教員

自分の興味のある講義を受けることができ、部活には本気で取り組み、かけがえのない仲間と出会い、尊敬できる教授と出会いました。長い人生の中のたった4年間ですが、國學院大學で過ごした時間は、私の宝物です。

※メッセージは平成29年末～平成30年上半の間に寄せられました。職業や内容は当時のものです。職業が未記入であったものは空欄になっています。
※卒業期は健康体育学科のものです。

子ども支援学科

主として幼稚園教諭・保育士の育成を目的とした学科です。世界的に広がっている「知識基盤社会」に関わるグローバルな視野と、保護者の子育て支援ならびに地域社会の子育て支援機能というコミュニティ・サービスに関わるローカルな視点を兼ね備えた、質の高い幼児教育・保育を実践することのできる指導者を育成します。

教員一覧 (平成30(2018)年11月10日現在)

池田 行伸 教授	筒石 賢昭 教授	山瀬 範子 准教授
石川 清明 教授	夏秋 英房 教授	吉永 安里 准教授
神長 美津子 教授	野本 茂夫 教授	廣井 雄一 助教
島田 由紀子 教授	結城 孝治 教授	
新富 康央 教授	笹田 弥生 准教授	



平成30年度 子ども支援学科入学生と学部教員



模擬保育を行う学生



保育ボランティア



模擬保育室



調理実習を行う学生



教育の方法と技術



大学に来校した幼稚園児を引率する学生



幼稚園での教育実習



保育所での保育実習



身近な素材で作成した教材



学生が作成した壁面装飾やおもちゃ

・・・卒業生からのメッセージ・・・

江口早紀(1期生) 保育士

辛いときや迷ったときには先生方や友達に相談をしたり、「みんなで頑張りよう!」と高め合えたりしたことで、楽しい気持ちが大きくなっていきました。子どもと向き合い子どもの顔を見て遊ぶだけでなく、背中側からその子が何をみて何を感じているのか、同じ気持ちになって考えることも大切だということに気づくなど、今でも日々学ぶことばかりです。

佐藤育子(1期生) 幼稚園教諭

特別区幼稚園の試験勉強では、「同期になって研修で会いたいね」とみんなで切磋琢磨して頑張りました。卒業した今、研修でみんなに会えることが一番うれしいです。あのとき、みんなと頑張れてよかった! !

秋間美季(1期生) 幼稚園教諭

先生方が親身になって教えてくださり、温かさを感じながら学ぶことが出来ました。この大学で学んだからこそ、今、幼稚園教諭として自信をもって楽しく子どもたちに関わることが出来るのだと思います。今になって先生方が教えてくださったことについて改めて理解を深めています。

小林彩加(1期生) 保育教諭

先生方が親身に相談に乗ってくださり、良き仲間と知り合うことができ、とても充実した学生生活を送り、人との繋がり大切さを学びました。今の職場で仕事をすききっかけも私の相談に耳を傾けてくださった先生方や友達がいてくれたからこそ。改めて子ども支援学科で学ぶことが出来て良かったと感じています。

北原里菜穂(1期生) 保育士

学生生活の思い出といえば、児

童養護施設での宿泊の実習です。2週間は大変でしたが、先生方や友達の支えもあって乗りきれました。実習を経験して、様々なニーズのある人の支えになりたいと思い福祉職を目指しました。現在は乳児院で仕事をしています。大変ですがとてもやりがいを感じています。

三吉野はるか(1期生) 保育士

講義での学び以外にもサークルやアルバイト等で学んだことが沢山あり、充実した大学生活でした。現在は子どもと接する中での驚きや面白さ、職員同士の連携や責任など学ぶことが多く、毎日が新鮮です。仕事量や仕事の期限、責任など大変な事もいっぱいありますが、笑顔と健康を第一に頑張っています。

椎名亜美(1期生) 保育士

様々なことを経験し学び、成長することのできた大学4年間でした。学問はもちろんのこと、実習やサークル活動を通して人として成長することが出来たと思います。特に実習では、日々の反省を繰り返し、目標に向かって行動していくことの大切さや、辛いことにも負けない心の強さを身に付けることが出来ました。

齋藤理沙(1期生) 幼稚園教諭

実習は貴重な経験でした。事前に予測し、指導案を書きましたが、実際にやってみると思ってもいないことが起こり、考えが足りないことに気づけました。また、幼稚園へのインターンシップ、母園でのボランティア、保育園でのアルバイトなど、現場で学んだことが今につながっています。今も、先輩から教えていただいたり、子どもたちと関わったりする中で日々学び続けています。

清水 佑(1期生) 保育士

大学で出会えた仲間や先生方は大切に。仕事の辛いこと、楽しいこと、学んだことを話せる関係が励みになりますよ! !

森 弥優(1期生) 保育士

大学時代は絵本キャラバンで絵本の読み聞かせをたくさんしてきました! 現在は働きながら保育技術を磨けるように日々努力しています。まだまだ経験の浅い私ですが、絵本キャラバンで培ってきたものがとても役に立っています。

北村翔平(1期生) 保育士

大学時代に所属していた絵本キャラバンでの経験を活かして、子ども達にたくさん面白い素敵な絵本に巡り合わせることができている気がします。「先生の本面白い!」と褒められると絵本キャラバンでたくさんのことを経験して良かったと感じます。

村上悠衣(1期生) 会社員

大学では、授業やゼミ、実習を通じて親子のコミュニケーションの大切さを学びました。現在は子育て環境が少しでも明るいものになることを目指して、育児情報誌の発行や子育てイベントの運営に携わっています。自分が関わった仕事で親子の笑顔を見られたときが何より嬉しいです!

栗原祐子(1期生) 幼稚園教諭

大学卒業後は一般企業に就職し、転職を経て現在は幼稚園教諭として働いています。責任が伴い膨大な仕事量につらいと感じる日もありますが、何より子どもが可愛く、子どもから貰う手紙で「来週も頑張りよう!」と思えます。今この仕事に邁進できているのは人間開発学部で幼児教育の土台を培った経験があるからです。

市森かりん(1期生) 幼稚園教諭

大学では、講義や実習を通して、小さなこともコツコツ積み重ねる大切さ、子どものために自分ができていることを探す大切さを学びました。現在、子ども一人一人が心地よく過ごせる学級づくりのために日々悩みながら頑張っています！

高橋美鈴(1期生) 児童指導員

大学では机上の学習と実際の現場実習の両面から、「どの子にもうれしい保育」の難しさと大切さを学びました。現在は大学で学んだことを活かし、放課後デイサービスで、1人1人の個性や特性に合わせた、ソーシャルスキルを伸ばすための支援を行っています。子どもの笑顔や「楽しい」の一言がなによりの活力です。

早坂夏美(1期生) 保育士

理論と実践の両方の学びが濃く、自分の「学びたい分野」に気付くことが出来ました。そして、その学びを追求できたのが、志の高い仲間とのサークル活動でした。ベビーマッサージと食育実践プランナーの資格を取得し、今年はその二分野を保育現場で活用するとともに、ベビーヨガの取得を目指し勉学に励んでいます！

堀尾拓哉(1期生) 福祉職

少人数制のため学友や教職員の方々との距離が近く、保育の未来について話しあえる環境が充実していました。自分の保育観にとらわれずに、色々な角度から保育を考えることができました。学部長賞を頂いたことは社会人になった現在も大きな自信につながっています。子どもにとっての最善の利益を常に考え、これからも子どもに向き合っていきたいと思います。

小鍛冶あいり(1期生) 幼稚園教諭

先生方からのご指導や仲間とともに過ごした日々は、保育者になる上で大切なことを学び、自分

身を見つめ直す時間となりました。温かい先生方や仲間に出会ったおかげで、充実した大学生活を送ることができました。現在、子どもたちとの向き合い方やより良い保育を模索しながら日々過ごしています。子どもの目線に立って考えることを忘れず、子どもたちとともに成長や喜びを感じながら、頑張っていきます。

大塚百々花(1期生) 幼稚園教諭

子ども支援学科はとにかくアウトホームな雰囲気でした。ルームの先生や仲間がいて、実習や就職活動のとき、卒業までずっと心の支えでした！また、学科のどの先生に相談に行っても、いつも笑顔で親身にお話を聞いてくださいました。

匿名(1期生) 保育士

学科で過ごした4年間は私の日々の保育の中で生かされていることばかりです。時には厳しく、時には優しく、ご指導を下さった先生方にはとても感謝しております。現在、毎日子どもたちと一緒に探求し、学び、成長をし、子どもの目線に立って考えることの大切さを感じています。

岡崎真由子(2期生) 保育士

学科での4年間を一言で表すと、「愛に感謝」です。先生方、友だちに恵まれ、保育だけでなく様々なことを学び、有意義な時間を過ごすことが出来ました。そんな周りの人々、環境に心から感謝しています。今は1歳児の担任として毎日色々な子どもの姿に助けられながら、子どもと共に成長する毎日を過ごしています。

福田有佳(2期生) 幼稚園教諭

大学では、学部学科を問わず様々な人と交流し、学びの機会や新しい考えを得ることができました。現在は、『初めて』が毎日あって新鮮な日々を過ごしています。

鬼頭歌乃(2期生) 幼稚園教諭

たくさんの先生方や仲間との出会いに満ちた4年間でした。講義やお互いの考えを交わすを通して、知識を得るだけでなく、自分の保育観を見つめ直し、育むことができました。悩んだこともありましたが、その度に温かい先生方に助けていただき、仲間と支え合いながら乗り越えることができました。現在は子どもとどう向き合うか模索する毎日ですが、大学で学んだ考え続ける姿勢を忘れずに頑張っています。

鈴木謙吾(2期生) 保育士

大学時代は、子どものことを第一に、努力すること、自分の引き出しを増やすことを学びました。現在、保育士として、子どもの気持ちを受け止め、向き合うこと、日々の保育を振り返り改善していくことを大切に頑張っています。

石井穂乃香(2期生) 保育士

毎日子どもたちと楽しく過ごしています。先輩方も丁寧に指導してくださり、日々勉強です。大学で学んだことが実際の仕事に活かされています。この学科で学ぶことができて、本当に良かったです。これからも素敵な保育者がこの学科から生まれてくることを祈っています。

岡野夏紀(2期生) 保育士

志高い仲間と苦楽を共にできたこと、個性的な先生方から理論だけでなく現場で生きる知識を楽しく面白く教えていただいたことに感謝しております。手遊びをしたり、公園で遊んだりして、自分自身がたくさん遊ぶ中で、自分が楽しければ子どもも楽しいということを学び、現在子どもと関わりの中で実感しています。

※メッセージは平成29年末～平成30年前半の間に寄せられました。職業や内容は当時のものです。
※卒業期は子ども支援学科のものです。

教育実践総合センター

地域の幼稚園教員、小・中学校の教員、地域自治体の教育センターや教育委員会等の教育関係者と連携し、教育実習や教育実践に関する地域に開かれた、本学部における主要な窓口になっています。年3回、教育実践総合センター便り『思ひ草』を発行しています。

教員一覧 (平成30(2018)年11月10日現在)

小笠原 優子 特任教授 塩谷 香 特任教授
銀杏 陽子 特任教授 唐沢 はるみ 特任准教授

学校現場との連携

保育所・幼稚園・小学校といった現場経験の豊富な先生による丁寧な指導を受けられます。学生からの信頼が厚いセンターです。



夏季教育講座

毎年、教育現場での教科教育、生活にかかわる様々なテーマについて、現場の先生方の講演、分科会での詳細な意見交換が行われます。



地域ヘルスプロモーションセンター

QOLの保持を基本的な理念として、健康とwell-beingの実現を目指し、幼児から高齢者までを対象とした健康づくりプログラムの考案・企画・実施・検証を積み重ねています。年3回、地域ヘルスプロモーションセンター便り『響育』を発行しています。

在籍された先生 (職階は退職時)

中村 芙美子 専門研究員

地域交流スポーツフェスティバル

平成27年度の第1回は雨天のため中止となりましたが、翌年の第2回以降は地域の子どもから高齢者まで多くの方が来校し、体力測定や健康相談、スポーツコーナーを体験しています。



生きがい講座・シリーズ講座

年間を通して、一般の方を対象として、健康・体力に関する実技や分かりやすい講義を企画・実施しています。



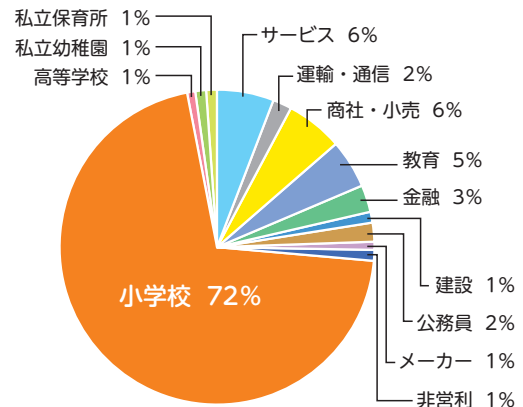
平成29年度卒業生(学部6期生)の就職状況

学生の頑張りとお教職員の手厚いサポートによって、人間開発学部卒業生の就職率は高い水準を保っています。

初等教育学科 就職率 97.3%

小学校教員採用試験の現役合格率が高く、現役正規採用率は50%です(参考:小学校平成29年度の全国平均は28.8%)。

卒業生のうち、約70%が小学校教員になっています。日頃の取り組みが各地の教育委員会に認められ、大学推薦枠が多いことも特徴です。

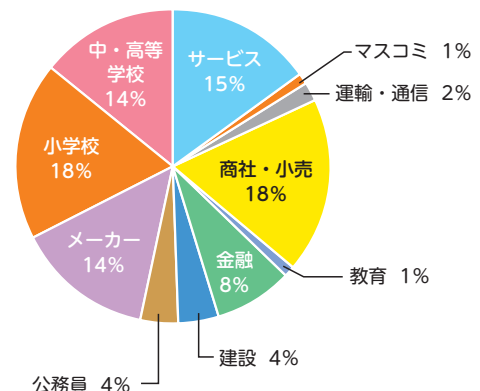


健康体育学科 就職率 99.0%

中・高等学校の保健体育科教員の現役合格率が高く、現役正規採用率は25%です。(参考:中・高等学校平成29年度の全国平均は13.7%)

小学校教員の志望者も多くいます。

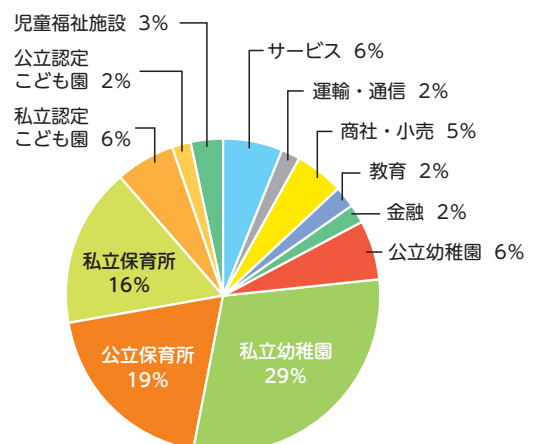
教員以外では、スポーツ関連企業に就職する学生が多いのが特徴です。



子ども支援学科 就職率 100%

公立幼稚園・公立保育所の合格率が63%と高いのが特徴です。授業で保育の実践法を学ぶことができるので、採用試験に活かすことができます。

きめ細かな個別進路指導で納得できる進路を見つけることができます。



「交叉点」

作詞：青木貴明(初等教育学科3年)
作曲：畠中優衣(初等教育学科3年)

中庭から見上げた 青く澄み渡る空
完成された世界で 自分は一体どこにある

偉い誰かが言っていた 「教育は人なり」って
わかった気がするけれど きつとなんにもわかつちやない

田園都市線に詰め込まれ どこかの誰かになっちゃおう

Life is what you make it.

ただ流されてないか
誰かの都合のいい存在になってないか
理想の自分はどこにいる

何かになることが目的になってないか
人づくりのプロとして
自分の可能性を開発してやろう

全力を尽くしてしまったら 自分の限界を知ってしまう
傷つくことが嫌なのか それじゃあ何も得られない
怖がって怯えていた自分に 今、引導を渡してやろう

Life is what you make it.

ただ流されてないか
誰かの都合のいい存在になってないか
理想の自分は見つけたか
ならそこへ向かって一直線に進んでいけ
人づくりのプロとして

自分の可能性を開発してやろう

